

CPD 認定プログラム
JSCE17-0365 13.0 単位



2017 年度 河川技術に関するシンポジウム—新しい河川整備・管理の理念と
それを支援する河川技術に関するシンポジウム— プログラム

(6月15日～16日, 東京大学農学部弥生講堂)

6月15日(木)	第1日目	開催場所:
08:50-	受付 (ポスターセッション1 設営準備)	
09:50-10:00	開会の挨拶 (河川部会部会長 戸田 祐嗣)	一条ホール
10:00-11:20	<u>ポスターセッション1 (PS1)</u>	エントランスホール
11:30-12:30	<u>オーガナイズドポスターセッション1 (OPS1)</u> 「H28 北海道・東北豪雨災害の特徴と今後の対応策」 企画・進行: 田村, 福島, 佐山	一条ホール
12:30-13:30	昼食 (ポスターセッション2 設営準備)	一条ホール
13:30-14:50	<u>ポスターセッション2 (PS2)</u>	エントランスホール
15:00-15:10	河川技術論文賞 表彰式	一条ホール
15:10-17:45	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS1)</u> 「多地点・多量の観測情報を有効に活用する新しい河川技術」 オーガナイザー: 渡邊, 戸田	一条ホール
18:00-	交流会	交流会会場
6月16日(金)	第2日目	
08:30-	受付 (ポスターセッション3 設営準備)	
09:30-10:50	<u>ポスターセッション3 (PS3)</u>	エントランスホール
11:00-12:00	<u>オーガナイズドポスターセッション2 (OPS2)</u> 「堤防浸透破壊はどこまで解明できたか」 企画・進行: 諏訪, 笠井, 新清, 溝口	一条ホール
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:20	<u>ポスターセッション4 (PS4)</u>	エントランスホール
14:30-16:30	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS2)</u> 「河川環境にかかわる基礎・応用研究と河川管理の実務をつなぐ」 オーガナイザー: 椿, 堂菌, 堀江	一条ホール
16:30-17:00	閉会式 (河川部会副部会長 渡邊明英) ・優秀発表者賞の発表 ・閉会の挨拶	一条ホール

オーガナイズドセッション 1 (OS1)
「多地点・多量の観測情報を有効に活用する新しい河川技術」

オーガナイザー：渡邊明英・戸田祐嗣

河川の管理や計画において、対象とする河川の地形・地被状況や流域における雨量・水位を観測・モニタリングすることは非常に重要であり、これまでも観測に基づいた計画や管理が行われてきました。また近年では、豪雨の増大に対する被害軽減のために、詳細で迅速な水文・水理データの空間的・時間的な把握と公表等が求められており、その中で、新たな観測・モニタリングによる取得データの積極的な活用や、それら観測情報と水理学・水文学的な解析技術との一体的な活用がますます重要になってくると考えられます。

河川技術シンポジウムにおいては、これまでも河川における水理解析や観測・モニタリングに関するオーガナイズドセッションを度々開催し議論を行ってきました。しかしながら、「解析技術」あるいは「観測技術」としての議論の枠から更に踏み込んで、近年急速に進展している観測・モニタリング技術や観測情報を十分活用した「河川技術」としてのあり方について議論を尽くしてきたとまでは言えないと思われま

そのため、今回のシンポジウムでは、新しい計測技術や通信技術に基づいて多地点で多量に計測されるようになったデータ（例えば X-RAIN による雨量情報、LP、ALB、UAV-SfM 等による地形・地被情報、縦断水面形観測データなど）の積極的な活用に基づく河川計画や河川管理に関する技術の発展や今後のあり方等に議論の的を絞ることとし、特定課題 1 「多地点・多量の観測情報を有効に活用する新しい河川技術」のオーガナイズドセッションを企画しました。

OS 1 ではこの課題に対する基調講演、話題提供と議論の場を提供いたします。新しい観測計測・モニタリング技術によって得られる情報の活用などを河川技術の革新に繋げるためにはどうすべきであるかについて議論したいと思ひます。

日時：2017 年 6 月 15 日（木） 15:10～17:45

◆プログラム

1) 15:10-15:35 : 主旨説明

(株)東京建設コンサルタント 環境防災研究所 所長 渡邊明英

- (1) 開催主旨：多点計測の意義と議論すべき点
- (2) 課題と議論の対象について
- (3) 本シンポジウムでの特定課題関連の論文や研究の傾向

2) 15:35-16:15 : 講演

【基調講演】 洪水縦断水面形の活用から期待される流域総合河川計画の展開

中央大学研究開発機構 教授 福岡捷二

3) 16:15～16:40 : 計測データの有効性・活用方法や将来展望に関する話題提供（投稿論文より）

【話題提供】 グリーンレーザ(ALB)を用いた河川測量の試み

国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所河川管理第一課 課長 山本一浩

【話題提供】 UAV-SfM 技術を活用した河川地形把握や河道管理

東京大学大学院情報学環 特任講師 齋藤正徳

4) 16:40～17:00 : 水文学からの話題提供

【話題提供】 任意地点を対象とするリアルタイム水位・流量予測に向けた技術開発について

京都大学大学院 工学研究科 教授 立川康人

5) 17:00～17:45 : 総合討議

[登壇者]	福岡捷二	中央大学研究開発機構	教授
	立川康人	京都大学大学院 工学研究科	教授
	山本一浩	国土交通省 福井河川国道事務所河川管理第一課	課長
	齋藤正徳	東京大学大学院情報学環	特任講師
	渡邊明英	(株)東京建設コンサルタント 環境防災研究所	所長
[進行役]	戸田祐嗣	名古屋大学大学院工学研究科	教授

オーガナイズドセッション2 (OS2)
「河川環境にかかわる基礎・応用研究と河川管理の実務をつなぐ」

オーガナイザー： 椿涼太，堂藺俊多，堀江克也

科学技術の開発は、基礎研究がベースとなり、応用研究が積み上がり、これらの研究を踏まえて実用的な技術が確立するという段階的なとらえかたをされることがあります。一方で、現場の課題と基礎・応用研究が連鎖的にフィードバックしていく仕組みが技術革新において重要であるということも認識されつつあります。

河川管理の実務においては、計画論から現場ごとの対応策まで様々なレベルで課題が残されており、さらに維持管理のリソースの制約は年々厳しくなりつつあります。その状況を打開するのは、応用研究成果ではありますが、それを支えるのは基礎研究でもあるはずで、また、応用研究の進展が新たな基礎研究の展開を希求することも技術革新の重要なプロセスといえます。

本オーガナイズドセッションでは、上記のような認識のもとに、河川環境に関連する分野を対象として、河川管理に関する政策の進展を振り返り、また、実践的な河川技術としての価値に光を当てた研究成果の集約を図ります。これらの現状認識をもとに、基礎研究・応用研究・実務のつながりを阻害する要因とその対応策の考察、実務の立場からの応用研究や基礎研究への期待などを議論します。

日時：2017 年 6 月 16 日（金）14:30～16:30

プログラム

1) 14:30～14:45 趣旨説明

名古屋大学大学院 椿 涼太

2) 14:45～16:00 講演・話題提供

・河川行政における自然環境の保全・復元に関する政策の実装過程の解明と今後の課題

東京大学大学院 池内幸司

・境界層水理学と河川低水路の環境管理

埼玉大学大学院 田中規夫

・樹林帯の科学と工学：その理解と評価、制御

埼玉大学大学院 浅枝 隆

・計画・調査・設計の実務から見た課題

いであ株式会社 堀江克也

3) 16:00～16:30 パネル討論

ファシリテーター：	椿 涼太	名古屋大学大学院
パネラー	池内幸司	東京大学大学院
	田中規夫	埼玉大学大学院
	浅枝隆	埼玉大学大学院
	堀江克也	いであ株式会社

オーガナイズドポスターセッション 1 (OPS1)

日 時 : 2017 年 6 月 15 日 11:30~12:30
テーマ : H28 北海道・東北豪雨災害の特徴と今後の対応策
企画・進行 : 気候変動WG 田村・福島・佐山

◆企画趣旨

H27 年の関東・東北豪雨に続いて、H28 年においても北海道・東北の豪雨により大きな河川災害が発生した。観測史上初めて太平洋側から東北への台風の上陸や北海道への度重なる台風の襲来が見られるとともに、豪雨の流出による計画規模を超過する河川流量の増大や、流路の大きな変動、堤防決壊による氾濫が発生し、橋梁など多数の構造物が被災した。

平成 27 年には、社会資本整備審議会から「水災害分野における気候変動適応策のあり方」、「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方」について答申され、平成 29 年 1 月には北海道や東北地方の豪雨災害を踏まえて「中小河川等における水防災意識社会の再構築のあり方について」が答申されており、治水施設の整備水準や計画規模を超過する洪水への対応の重要性が増している。

本シンポジウムにおいては、H28 年の北海道・東北豪雨における河川災害の特徴や水理現象を題材とした論文等が投稿されており、本 OPS では、投稿論文の中から、数編の話題を提供し、それをもとに大規模洪水時における河道内の現象や災害特性の理解、それらへの対応策等について会場全体で議論する。

オーガナイズドポスターセッション 2 (OPS2)

日 時 : 2017 年 6 月 16 日 11:00~12:00
テーマ : 堤防浸透破壊はどこまで解明できたか
—河川堤防研究の進捗状況と今後の方向—
企画・進行 : 堤防WG 諏訪、笠井、新清、溝口

◆企画趣旨

2010、2011 年の河川シンポジウムにおいて、堤防研究に関するオーガナイズドポスターセッションが開催され、2010 年は堤防研究の輪を広げる重要性が確認され、2011 年は堤防に関わる既往研究をレビューし、地盤工学委員会との連携を深める方向性が確認された。2012 年には堤防の技術課題に関するオーガナイズドセッション及びオーガナイズドポスターセッションが共同開催された。この中で、破堤回避から見た堤防に関する技術の見方、堤防に関する技術課題の整理が示され、断面の安定性を考えるのみでは堤防の安全性を高めることにはならないこと、堤防の安全を考えると治水システムそのものを考えることが確認された。

2013、2015 年の河川シンポジウムにおいて、堤防研究に関するオーガナイズドポスターセッションが開催された。2013 年は地盤工学委員会との連携 WG の設置が報告されるとともに、前年に発生した矢部川のパイピング破壊の現状報告を受けて研究の方向性について議論した。2015 年は、連携 WG から成果報告を兼ねて河川堤防の効率的な補強に向けたアカデミックリサーチマップが提案され、今後研究の方向性について議論がなされた。昨年（2016 年）は土木学会全国大会で地盤工学委員会堤防研究小委員会主催の研究討論会が河川部会協力の下開催され、最新の研究動向と堤防設計の今後の方向性について議論がなされた。

このような積み重ねの結果、堤防研究の重要性は着実に浸透し、河川技術に関する論文集第 23 巻では、特に浸透破壊関係で研究の進捗を窺わせる論文が複数掲載されている。2012 年の「破堤回避から見た堤防に関する技術の見方」、「堤防に関する技術課題の整理」、2015 年の「アカデミックリサーチマップ」を念頭に置きつつ、本オーガナイズドポスターセッションにおいては、浸透破壊についての研究成果について論文執筆者から話題提供していただき、堤防研究の進捗状況、研究成果の実務への反映の方向、今後の研究の方向について会場全体で議論する。

◆プログラム

1) 11:00～11:03 趣旨説明

2) 11:03～11:30 話題提供

【話題提供 1】パイピングの発生条件

名古屋工業大学 教授 前田健一

【話題提供 2】裏法すべりの破壊危険性評価

愛媛大学大学院 教授 岡村未対

【話題提供 3】実物大実験によるパイピング破壊

国土技術政策総合研究所河川研究室 研究官 笹岡信吾

【話題提供 4】縦断的危険箇所評価手法—堤防脆弱性指標—

中央大学研究開発機構 機構准教授 田端 幸輔

【話題提供 5】2016 年 8 月常呂川洪水で見られた浸透被災

北見工業大学 教授 渡邊康玄

3) 11:30～12:00 会場とのディスカッション

- ・ 研究進捗の評価
- ・ 実務への反映、今後取り組む研究の方向

ポスターセッション 1 (PS1)

日 時 : 2017 年 6 月 15 日 (木) 10:00~11:20

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (10:00~10:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:40~11:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS1 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 札内川・戸蔭別川合流地点における堤防決壊と氾濫原からの還流による被害特性の検証 iRIC 研究会 石田義明	洪水の氾濫と 減災
2) 河道屈曲部上流側で生じる水位上昇の軽減策に関する基礎研究 国立高専機構阿南高専 創造技術工学科 長田健吾	洪水の氾濫と 減災
3) 橋梁を簡易的に考慮した山国川流域の洪水氾濫解析 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻博士前期課程 大久保 剛貴	洪水の氾濫と 減災
4) レーダ雨量を外力とした本・支川複数流域の分布型流出・洪水追跡と各流域パラメータの推定 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻博士前期課程 中木翔也	洪水の氾濫と 減災
5) 浸水確率の空間分布を考慮した洪水氾濫リスク評価法の鬼怒川洪水への適用 防衛大学校建設環境工学科 多田 毅	洪水の氾濫と 減災
6) 2016 年 8 月常呂川洪水における構造物等の被災状況調査 北見工業大学社会環境工学科 渡邊康玄	水・土砂災害と その発生機構
7) 2016 年北海道豪雨における九線橋被災メカニズムの調査と解析 (国研) 寒地土木研究所 寒地河川チーム 井上卓也	水・土砂災害と その発生機構
8) 2016 年度小本川災害における流路・河床変動を伴う洪水流の解析 国立研究開発法人土木研究所 ICHARM 原田大輔	水・土砂災害と その発生機構
9) 小本川における洪水時の流水抵抗変化がハイドログラフに及ぼす影響 国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ水文チーム 工藤 俊	水・土砂災害と その発生機構

10) 2016 年北海道豪雨災害におけるペケレベツ川の被災状況と流路変動特性の検証 北海道大学大学院工学研究院 久加朋子	水・土砂災害と その発生機構
11) 2016 年北海道豪雨災害における空知川幾寅地区の破堤・氾濫要因の検討 北海道大学工学部環境社会工学科社会基盤学コース 奥田 醇	水・土砂災害と その発生機構
12) 水害時における調査方法の標準化および共通データベース構築に向けたガイドラインの提案 富山県立大学工学部環境工学科 呉 修一	水害リスク/ 治水・減災技術
13) 洪水痕跡によるピーク水位時の流量と粗度係数の推定 九州工業大学大学 工学部 建設社会工学科 武久晋太郎	水害リスク/ 治水・減災技術
14) 施設能力を上回る洪水においても人的被害を出さないための施策検討手法の開発 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 柳川一博	水害リスク/ 治水・減災技術
15) 地形・地質の痕跡に基づく谷底侵食低地形形成過程の考察及び極値流量とその発生年代の推定 株式会社キタック 涌井正樹	水害リスク/ 治水・減災技術
16) 建物用途別の資産鉛直分布及び浸水確率を踏まえた都市における家屋・事業所の資産被害評価の検討と試行 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 山本陽子	水害リスク/ 治水・減災技術
17) 深層学習を利用した Neural Network による類似台風検索システムの開発 建設技術研究所大阪本社水システム部 由良英作	水害リスク/ 治水・減災技術
18) 高速演算モデルを使った浸水予測情報配信システムの構築 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部水害研究室 大沼克弘	水害リスク/ 治水・減災技術
19) 治水施設に対する漂流物を伴う津波波力の増大及び低減特性に関する実験的検討 国土交通省水管理・国土保全局 阿部孝章	水害リスク/ 治水・減災技術
20) 水制を用いた遊水地の洪水調節機能の向上に関する検討 - 六角川を対象として - 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻 竹下大祐	水害リスク/ 治水・減災技術
21) 住民行動の不確実性を考慮した洪水時の避難移動時間把握の試み 国土技術政策総合研究所 武内慶了	水害リスク/ 治水・減災技術
22) 2015 年 9 月関東・東北豪雨における鬼怒川洪水時の避難情報及び浸水状況が住民の避難行動へ及ぼした影響に関する研究 中央大学大学院理工学研究科 諸岡良優	水害リスク/ 治水・減災技術
23) ハイδροバリアー水制を用いた河川横断形状の二極化の低減に関する研究 大日本コンサルタント(株) インフラ技術研究所 川づくり研究室 中村創	河川構造物と 河道制御

24) 河川における多段式落差工のエネルギー減勢効果とその評価 (独) 国立高専機構 岐阜工業高等専門学校 和田 清	河川構造物と 河道制御
25) 連続箱型鋼製枠の仮締切護岸への適用と技術検討 太陽工業株式会社 国土環境エンジニアリングカンパニー 山本浩二	河川構造物と 河道制御
26) 被災が頻発した中小河川における河川護岸の事例調査について (報告) 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 鈴木淳史	河川構造物と 河道制御
27) 常願寺川現地実験水路における河岸防護工近傍の流れの三次元構造と河岸 に作用する流体力の評価 中央大学大学院 加藤翔吾	河川構造物と 河道制御
28) 貯留関数パラメータの一般性に関する気候・地質条件の異なるダム流域にお ける検討 明星大学 理工学部 藤村和正	降雨・流出予測
29) Fokker-Planck 方程式を用いた降雨の不確実性を考慮した降雨流出の予測手 法に関する研究 中央大学大学院 理工学研究科 都市環境学専攻 成 岱蔚	降雨・流出予測

ポスターセッション 2 (PS2)

日 時： 2017 年 6 月 15 日 (木) 13:30~14:50

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:30~14:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (14:10~14:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS2 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 水中の河床地形の面的計測とその活用方策について 日本工営株式会社 河川・水工部 秋田麗子	計測技術と モニタリング
2) UAV と SfM-MVS を用いた河道水面下測量技術における水面屈折補正の高度化 山口大学大学院創成科学研究科 神野有生	計測技術と モニタリング
3) 画像解析を用いた河川流速計測における撮影・標定手法の開発と精度管理に関する研究 株式会社東京建設コンサルタント 小林範之	計測技術と モニタリング
4) 平面 2 次元流解析とアジョイント法に基づいた点観測の水位情報に対する縦断水面形時間変化の同化手法の検討 (株)東京建設コンサルタント環境防災事業本部環境防災研究所 渡邊明英	計測技術と モニタリング
5) SfM-MVS を応用した出水前後の微地形変遷の検討 愛知工業大学工学部 土木工学科 赤堀良介	計測技術と モニタリング
6) 河床材料の多地点元素分析による高解像度な分布特性の把握に向けた基礎的研究 一般財団法人 電力中央研究所 鈴木準平	計測技術と モニタリング
7) 都市河川と小規模池のリン除去対策への焼成カキ殻付水上ドローンの活用 東京理科大学 二瓶泰雄	計測技術と モニタリング
8) 兵庫県河川監視カメラを活用した STIV 解析による洪水流量観測の可能性について 三井共同建設コンサルタント株式会社 河川・下水道事業部 近者敦彦	計測技術と モニタリング

9) 寒冷地感潮域河川における DIEX 法を用いた流量観測自動化 (株) 福田水文センター 橋場雅弘	計測技術と モニタリング
10) STIV 法とトレイルカメラによる低コスト流速観測手法 株式会社福田水文センター 土田宏一	計測技術と モニタリング
11) XRAIN データの活用による局地的豪雨に対する数値予測の精度向上の評価 -2014 年広島豪雨を対象として- 広島大学大学院工学研究科 北 真人	計測技術と モニタリング
12) 一級水系における長期間・多地点水位観測データ解析に基づく年最大水位の 長期変動トレンドの把握 東京理科大学理工学部土木工学科 片岡智哉	計測技術と モニタリング
13) 洪水水面形観測情報の広域的・統合的活用による流域治水の考え方の構築に 向けて 中央大学研究開発機構 福岡 捷二	計測技術と モニタリング
14) 多点水位計測システムを用いたリアルタイム水面形・流量推算手法 中央大学研究開発機構 後藤岳久	計測技術と モニタリング
15) 非接触計測と水理解析による河川水位・流量観測システムの確立に向けた検 討 パシフィックコンサルタンツ株式会社 柏田 仁	計測技術と モニタリング
16) 複数回の航空レーザ測量結果を活用した代表 1 地点の観測値から簡易にダム 流域の積雪分布を推定する手法の検討 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 西原照雅	計測技術と モニタリング
17) 随伴変数法による水位縦断分布のリアルタイム予測に関する研究 日本工営株式会社 流域・都市事業部 河川・水工部 西口亮太	計測技術と モニタリング
18) 危機管理型簡易水位計を活用した洪水監視体制の省力化・効率化 パシフィックコンサルタンツ株式会社 防災危機管理部 飯田進史	計測技術と モニタリング
19) 多地点観測情報を活用した深層ニューラルネットワークによる河川水位予 測の精度向上 日本工営株式会社 中央研究所 一言正之	計測技術と モニタリング
20) グリーンレーザ (ALB) を用いた河川測量の試み 国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 河川管理第一課 山本一浩	計測技術と モニタリング

<p>21) 吉野川岩津狭窄部におけるサブボトムプロファイラーを用いた堆積砂層厚の面的把握と洪水時の流況・河床変動特性 高知工業高等専門学校 岡田将治</p>	<p>計測技術と モニタリング</p>
<p>22) XRAIN やフィルタリング技術を活用した水位予測システムの適用上の課題とその対応 (株)建設技術研究所大阪本社水システム部 増本健佑</p>	<p>計測技術と モニタリング</p>
<p>23) 既存点検結果を活用した効果的な河川管理施設の維持管理に関する提案 三井共同建設コンサルタント株式会社 原田紹臣</p>	<p>河川・流域管理</p>
<p>24) ダム貯水池における流木発生特性に関する研究 京都大学防災研究所 倉橋 実</p>	<p>河川・流域管理</p>
<p>25) 橋梁部における流木捕捉・水面形変化状況と流木対策技術の効果検証 東京理科大学大学院 桜庭拓也</p>	<p>河川・流域管理</p>
<p>26) レーザ計測技術の点検実務への適用に関する検討 (公財)河川財団 河川総合研究所 戦略的維持管理研究所 小澤淳真</p>	<p>河川・流域管理</p>
<p>27) 流域地質と河道特性に着目した扇状地における土地利用特性の解明 東京大学工学部社会基盤学科 廣尾智彰</p>	<p>河川・流域管理</p>
<p>28) 河川整備計画策定プロセスにおける住民関与手続きの活性化要因に関する分析 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 山田真史</p>	<p>河川・流域管理</p>

ポスターセッション 3 (PS3)

日 時 : 2017 年 6 月 16 日 (金) 9:30~10:50

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (9:30~10:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:10~10:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS3 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 現状の堤防植生の課題に応じた新たな堤防管理のあり方の提示 (公財)河川財団 河川総合研究所 山本嘉昭	堤防管理
2) 縦断方向の土質の不均質性に着目した河川堤防の被災原因調査 山口大学大学院創成科学研究科 森 啓年	堤防管理
3) 堤防植生と植生基盤土質の関係について (株)エコー 河川・環境部 大澤寛之	堤防管理
4) 河川堤防の浸透対策工のための透気防水シートの機能評価 岐阜大学 伊東侑毅	堤防管理
5) 二次元浸透流解析によるパイピング照査の高度化に向けた基礎研究 日本工営株式会社 齊藤 啓	堤防管理
6) 異なる基礎地盤特性の堤防の噴砂動態・パイピング挙動と漏水対策型水防工法の効果 名古屋工業大学 西村 柁哉	堤防管理
7) 堤防脆弱性指標に基づいた堤防破壊危険性評価に関する研究 ―鬼怒川中下流部平成 27 年 9 月大洪水を例として― 中央大学研究開発機構 田端幸輔	堤防管理
8) 高水時の堤防裏法面の滑り領域と破堤危険度評価 愛媛大学大学院理工学研究科 岡村未対	堤防管理

9) パイピングにより堤体表面に現れる沈下分布の特徴 名古屋工業大学 前田健一	堤防破壊機構
10) 模型実験に基づいた河川堤防のパイピング発達に係わる土質条件の分析 国土技術政策総合研究所河川研究部 上野俊幸	堤防破壊機構
11) 河床勾配と川幅に応じた破堤拡幅現象の分類 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム 島田友典	堤防破壊機構
12) 大型模型実験に基づく河川堤防におけるパイピング発達過程の考察 国土技術政策総合研究所河川研究部 笹岡信吾	堤防破壊機構
13) タンクモデルにより求まるタンクからの流出量が流域からの表層崩壊・土石流に伴う土砂移動量に及ぼす影響 国立研究開発法人土木研究所 木下篤彦	土砂動態と 土砂管理
14) 斜面の変形地形や湧水の電気伝導度に着目した深層崩壊発生危険斜面の危険度評価に関する研究 国立研究開発法人土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流チーム 森加代子	土砂動態と 土砂管理
15) 空中電磁探査による比抵抗の分布に着目した深層崩壊危険斜面の抽出技術の開発 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター 田中健貴	土砂動態と 土砂管理
16) 崩壊時の地盤振動特性に着目した大規模土砂移動の検知に関する研究 株式会社エイト日本技術開発 海原荘一	土砂動態と 土砂管理
17) 天竜川流砂系総合土砂管理計画第一版策定に向けて 一大規模な土砂管理対策実施による平均河床高等の指標値の変化とその管理・評価手法の検討 国土交通省中部地方整備局河川部河川保全管理官 木村秀治	土砂動態と 土砂管理
18) 濁度成分の量と粒径に着目した流域内の崩壊監視手法に関する研究 和歌山県 筒井和男	土砂動態と 土砂管理
19) 荒瀬ダム撤去事業における堆積土砂・浮遊土砂の動態に関する研究 東京理科大学理工学部土木工学科（現 土木研究所自然共生研究センター） 大槻順朗	土砂動態と 土砂管理
20) 水理模型実験と準3次元洪水流解析に基づく五ヶ瀬川の適正な分派対策の検討 株式会社 建設技術研究所九州支社河川部 坂本 洋	河道変化と 管理方策

21) 高精度な安定河道の予測式の開発とその河道整備・管理への活用 九州工業大学 工学部建設社会工学科 内野雅文	河道変化と 管理方策
22) 水理模型実験と現地試験施工を踏まえた、軟岩露出河川に対する河床低下対策工の検討 (株)開発工営社 濱木道大	河道変化と 管理方策
23) 橋脚周辺の軟岩侵食対策の効果検証に関する水理模型実験による検討 株式会社 水工リサーチ 加藤一夫	河道変化と 管理方策
24) 連続した河岸防護工による砂州性河岸侵食の抑制に関する水理実験 株式会社建設技術研究所 東京本社河川部 加藤千恵	河道変化と 管理方策
25) 「巨石付き盛土砂州を用いた河岸防護工」の洪水被災と機能確保の技術検討 国土交通省北陸地方整備局 富山河川国道事務所 調査第一課長 池田大介	河道変化と 管理方策
26) 土砂管理上の多くの課題を有する海部川の実態解明と掘削事業効果を高める河川管理策の検討 ～簡易平面二次元洪水流－河床変動解析法の活用～ 徳島県県土整備部河川整備課 山下 礎	河道変化と 管理方策
27) 砂河川斐伊川の河床低下、低水路幅の縮小化と是正のための今後の対応 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 廣野太志	河道変化と 管理方策
28) 旧流路部を活用した水路掘削と平面掘削の併用による砂礫河原再生手法の提案 国土交通省北陸地方整備局 千曲川河川事務所 岩井 久	河道変化と 管理方策
29) 地形・地質に基づく中山間地の集落・河川の類型化と 人口減少社会下における河川維持管理の課題 東京大学大学院工学系研究科 押野 祐	河川・流域管 理

ポスターセッション 4 (PS4)

日 時 : 2016 年 6 月 16 日 (金) 13:00~14:20

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:00~13:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (13:40~14:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS4 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 札内川における旧流路復元箇所における分岐部の流れの特性 寒地土木研究所寒地河川チーム 山口里実	洪水の水理と 河床変動
2) 崩壊地を含む流域の地質・地形特性が山地河道の階段状河床形態に及ぼす影響 名古屋大学減災連携研究センター 田代 喬	洪水の水理と 河床変動
3) 木曾川大規模深掘れにおける粘性土層の破壊・剥離現象と深掘れ拡大要因の推定 株式会社建設技術研究所 中部支社 蟹江盛仁	洪水の水理と 河床変動
4) 多列砂州を有する大井川の河床変動特性と、流量時系列の変化が河床変動へ及ぼす影響 名城大学 溝口敦子	洪水の水理と 河床変動
5) 千種川水系における河川改修に伴う周辺地下水・河川環境影響検討と対策 八千代エンジニアリング株式会社大阪支店環境部 鷺見浩司	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
6) ダム直下における付着藻類の繁茂を抑制する流量管理方針のモデリング 島根大学生物資源科学部 吉岡秀和	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
7) 雨水タンクの水質特性の把握と改善策の検討 東京理科大学大学院 有川 遼	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
8) 四万十川における流下能力確保とスジアオノリの生育環境創出を両立させる砂州掘削方法の検討 いであ株式会社 大阪支社 中平 歩	河川環境の 評価と保全/ 環境管理

9) 施工を伴う河川環境創出スキームへの実装を目的とした高密度な河道水理特性の事前把握手法 大同大学大学院工学研究科都市環境デザイン学専攻 吉川慎平	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
10) 都市河川における捨て石を活用した河道内自然再生工法の導入と評価 九州大学大学院工学府 大野拓摩	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
11) 河岸の横断面形状に着目した空間利用ポテンシャル評価指標の提案 国立研究開発法人土木研究所 鶴田 舞	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
12) 鶴見川における多自然川づくりについて 国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 永田雅文	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
13) 環境管理における対策実施優先区間の選定について 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 福島雅紀	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
14) 阿賀川における礫河原再生事業と自然環境の復元に関する一考察 国土交通省北陸地方整備局 阿賀川河川事務所 古瀬 修	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
15) ドローンとサーモグラフィーを組み合わせた砂州の湧水ポテンシャルの評価 京都大学防災研究所 小林草平	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
16) 氾濫原依存種保全の観点からみた高水敷緩傾斜掘削の評価-菊池川を事例として- 熊本大学 自然科学研究科 社会環境工学専攻 上杉幸輔	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
17) 環境防災統合論 多自然川づくりから Eco-DRR へ 九州大学工学研究院 島谷幸宏	河川環境の 評価と保全/ 環境管理
18) 石組みを利用した減勢工に関する実験から実務への適用とその成果 日本大学理工学部土木工学科 安田陽一	河川生物の 生息場保全
19) 橋脚周りの河床変動に伴う魚類の生息域変化に関する調査 九州工業大学大学院 定地憲人	河川生物の 生息場保全
20) 流水中におけるカワムツの生物量と環境 DNA 量の関係性-水路実験と野外への適用- 山口大学大学院 創成科学研究科 乾 隆帝	河川生物の 生息場保全

<p>21) 河川汽水域における環境に配慮した河道設計法確立のための河道特性と貝類相の関係に関する研究 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター 巖島 怜</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>22) 耳川水系ダム通砂実施計画の策定に向けたダム通砂による魚類への影響予測 西日本技術開発（株） 井原高志</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>23) 環境 DNA を用いたアユの定量化と降下状況モニタリングの試み 山口大学大学院 創成科学研究科 河野誉仁</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>24) 流況計算と河川水辺の国勢調査結果を用いた交互砂州の発生領域区分と魚類生息環境の関係 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム 矢野雅昭</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>25) アーマー化した河床への土砂流入による 河床表面の鉛直構造の変動が付着藻類に及ぼす効果の予測 国立研究開発法人土木研究所 自然共生研究センター 宮川幸雄</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>26) 四万十川におけるアユの産卵に適した環境場の抽出と出水後の予測に関する研究 高知工業高等専門学校専攻科 松岡直明</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>27) 土師ダム下流におけるオオカナダモの繁茂・流失要因の検討 山口大学大学院創成科学研究科 後藤益滋</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>28) 砂州の形状および礫構造が植生域の分布特性と安定性に及ぼす影響 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程 秦 夢露</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>
<p>29) 筑後川水系中流域の河川合流部におけるハビタットの出現特性と魚類の生息状況 九州大学 工学研究院 環境社会部門 田中 亘</p>	<p>河川生物の 生息場保全</p>